

各 位

会社名 リンクメッド株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉井 幸恵

NEDO「ディープテック・スタートアップ支援基金／ディープ テック・スタートアップ支援事業」に採択のお知らせ

リンクメッド株式会社（代表取締役社長：吉井 幸恵、本社：千葉県千葉市、以下「当社」）は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）の実施する「ディープテック・スタートアップ支援基金／ディープテック・スタートアップ支援事業」に採択されたことをお知らせします。PCA フェーズ（実用化研究開発（後期））の事業として、最大で10億円の規模でNEDOから助成を受けることが決定しました。

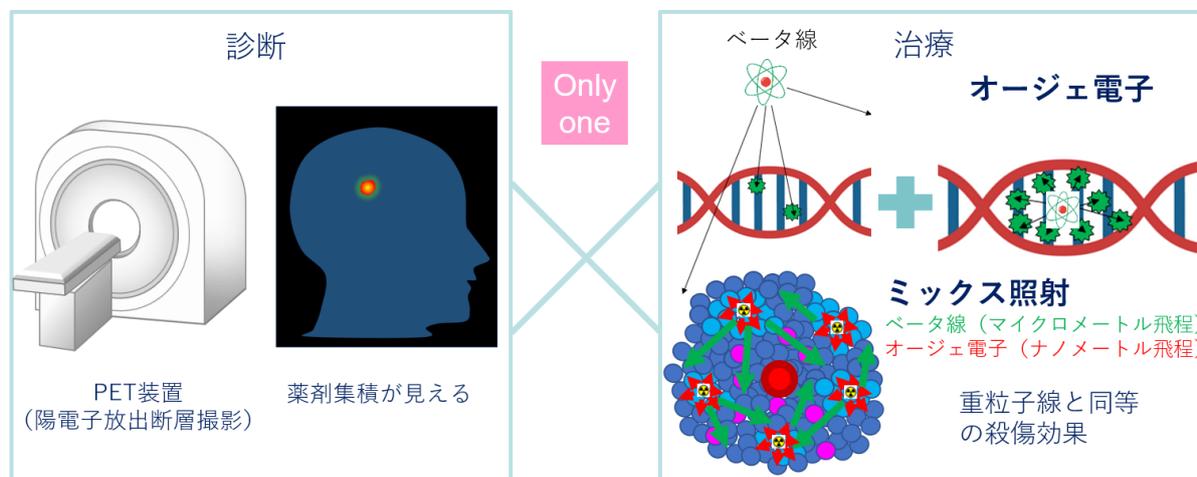
助成事業：次世代医薬開発を加速する ^{64}Cu 創薬支援プラットフォーム開発

フェーズ：PCA フェーズ（実用化研究開発（後期））

事業期間：2026年3月まで

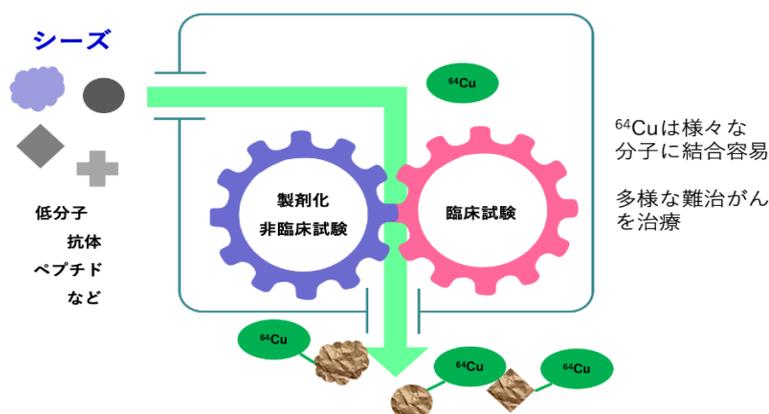
事業助成金の規模：最大で10億円

事業目的：診断用と治療用の放射線を放出し多様な分子に結合が容易との特徴を有する放射性同位元素である ^{64}Cu を量産化するための技術開発に取り組む。これにより、 ^{64}Cu を用いる「見える」がん治療薬を次世代医薬品として迅速に開発できる日本発の創薬支援プラットフォームとして確立、新たな産業基盤を創出する。



独自技術で診断薬から初の治療薬化に成功、放射性治療薬開発のフロンティアへ

これまでのがんに対する放射線治療や化学療法では、治療効果が十分でない、正常細胞に対する副作用が大きいといった問題がありました。当社は、こうした問題を克服しうる『銅の放射性同位体 ^{64}Cu を用いた放射性医薬品』を開発してきました。 ^{64}Cu は、従来の放射性治療薬で使用されてきたベータ線のほかに、オージェ電子という特殊な放射線を出し（ミックス照射）、がん細胞を高いエネルギーで効果的に治療できます。また、 ^{64}Cu は陽電子も放出するため、陽電子放射断層撮影（positron emission tomography; PET）診断で非侵襲的にがんへの薬剤集積を確認しながら治療（見ながら治療）することができます。



^{64}Cu はがんと高い親和性を示す様々な分子に結合させることが可能なため、がん特異的に効果を発揮する多様な医薬品を持続的に創出することができます。当社はこうしたユニークな特徴を持つ ^{64}Cu を用いて、当該事業を通して ^{64}Cu を用いた放射性医薬品の国内における量産体制構築に向けて必要となるサイクロトロンや製剤設備の新設することで、日本独自の創薬支援プラットフォームとしての『革新的な「見える」がん治療』を確立し、新たな産業基盤を創出してまいります。

NEDO「ディープテック・スタートアップ支援基金/ディープテック・スタートアップ支援事業」について

本事業では、技術の確立や事業化・社会実装までに長期の研究開発と大規模な資金を要し、リスクは高いものの国や世界全体で対処すべき経済社会課題（カーボンニュートラル、資源循環、経済安全保障等）の解決にも資すると考えられる革新的な技術の研究開発に取り組んでいる「ディープテック・スタートアップ」に対し、〔1〕STS フェーズ（実用化研究開発（前期））、〔2〕PCA フェーズ（実用化研究開発（後期））、〔3〕DMP フェーズ（量産化実証）の3つのフェーズにおいて、研究開発や事業化のための支援を行います。各フェーズでの事業実施後、ステージゲート審査で認められた場合には、次のフェーズへ進めるなど事業を継続して実施することを可能とします。

事業概要ページ：URL：https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP_100250.html

採択結果公表ページ：URL：https://www.nedo.go.jp/koubo/CA3_100419.html

以上

リンクメッドについて

リンクメッド株式会社は、「Link for Life-最先端科学と医療をつなぐ-」というミッションを達成するために、『革新的な「見える」がん治療』をいち早く社会にお届けすることを目指し、放射性医薬品の開発を行っている研究開発型企業です。当社は量子科学技術研究開発機構（QST）における研究をもとに設立され、銅の放射性同位体である ^{64}Cu を用いたがんの治療薬・診断薬を開発しています。詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

リンクメッド株式会社

linqmed@linqmed.co.jp